

宇曾川河川敷、河岸清掃のまとめ

実施日 令和1年5月6日月曜日（振替休日）

天候 晴れ 風力 微風（1m未満） 気温 20度

時間 8:30 ~ 11:00

滋賀県立大学と連携して取り組んでいる彦根デザインカレッジ荒神山キャンパスの事業が平成29年度で終了し、その継承として新たに「荒神山ファンクラブ」が立ち上がった。荒神山自然の家が主体的に活動を企画・運営していく中で、宇曾川河川敷および河川内の清掃活動をおこなった。また、今年度より、運営を指定管理者高木・技研特別共同体が行うことになったため、環境保全と啓発も踏まえて活動をおこなった。この場所は彦根市荒神山自然の家のプログラムであるリバーボート乗降場で子どもたちが数多く訪れる場所である。約3時間にわたって、午前8時30分より実施した。

以前より悪性水生植物のナガエツルノゲイトウが繁殖し、その場所にゴミが漂着したりその除去作業に終始していたが、平成29年に県の環境保全課の協力を得てほとんど除去することができた。その反面、ゴミが漂着しゴミだめの模様を呈してきた。今後悪臭を放つ恐れがあるため、今回は、ゴミの撤収作業に専念することとし、一部草刈りなどの環境整備に当たった。

以前から利用されている団体の引率の方々からは、「以前よりきれいになった」「掃除をされたのですか」などの問いかけがあり、自然の家の活動への関心や環境について利用者の意識が高いことに驚かされたとともに、継続していかなければならないと感じている取り組みのひとつである。

GW最終日で、天候も安定していたが、午後より雨の予報が変わったため、心配したが当日は、気温がやや高めであったものの適度に活動ができ絶好のコンディションとなった。

荒神山を愛する仲間の会、荒神山山王会、彦根市教育委員会生涯学習課、高木造園の関係者にそれぞれ協力依頼をした。それと、彦根市荒神山自然の家職員が一堂に会した。

作業場所は、荒神山自然の家の活動プログラムのひとつとなっているリバーボートの乗り場ならびに水鳥の生息地でもある葦の植生地周辺で取り組みを進めた。活動環境を整えるために、リバーボート乗り場の草刈り、リバーボート乗り場へいく階段と乗り場の草刈りと周辺の整備、リバーボート乗り場付近の漂着物の撤去をおこなった。

まず、草刈り隊は、草刈り機で下草を刈り、回収。集めた草については、邪魔にならないところへ置き、子どもたちが裸足で歩いてもけがをしないように、また、美しく見栄えがするように刈り込んでいった。同じく、階段（2カ所）は鎌を使い、草取りもおこなった。さらに、乗り場周辺のゴミを火箸などで分別し、回収した。例年この付近には、釣り針がよくおちている。看板等で啓発をしているためか、今年度は釣り針や釣り道具の放置はなかったのがありがたかった。それにより子どもたちが裸足になる場所の安全確保をおこなった。

漂着物の回収は、唐崎橋下付近と葦群生地および、リバーボート発着場の100メートル下流にある葦群生地、小海橋流域である。唐崎橋下付近およびリバーボート乗り場の漂着物は網で撤収をした。しかし、葦群生地は河川内にあるために、リバーボートと指導艇で、葦群生地に行き網で漂着物の撤収を計画したが、人数の都合で指導艇のみで撤去作業を行なった。従って今回は、河川敷から網で回収したり、手で拾い上げたりするなどして一つ一つゴミ処理に当たった。また、レーキやクワなどで引き上げたり、河川敷に拾い上げたりしてごみを取り除いた。

回収したものの多くは、ペットボトル、ビン、ビニール、プラスチックごみ、発泡スチロールなど。なかには、木材、ボール、靴、冷蔵庫のインバーターなど引き上げられ、なぜこのようなものがあるか不思議にも思った。

一方、悪性水生植物は、撤去作業ではほぼ除去できていた。今回事前に下見に行った段階では、繁茂の兆しは見られなかった。しかしながら、わずかばかりの根が残っているため少し芽吹いてもいる模様であった。今後活動中に撤去作業も必要であるし、9月の作業では撤去作業が必要になってくることが予想される。胴長を身にまとい水の中に入るととにかく水生植物を根元から引き抜く作業を延々と行う必要性がありそうである。

引き上げたごみの回収は、彦根市清掃センターに協力依頼をした。以前はかなりの量で、軽トラック3台分ぐらいあったこともあったが、放置ゴミや釣り道具の散在などは格段に減っており、軽トラック1台分に収まった。徐々に作業の草の根活動が根付いてきていると実感した瞬間でもあった。清掃活動終了後は、参加した人からもとても美しくなって気持ちがいいなどの声が上がって心地よい疲れが残った。

しかしながら、ゴミについては近隣自治体の理解や協力ならびに何より、彦根市の行政機関の自治体への啓発や協力が今後は必要となってくるし、課題のひとつとしてあげられる。改善や対応が待たれ、期待したい。

いずれにしても、この場所は、子どもたちなどがリバーボート活動をしたり、水鳥が生息したり、かもたちが羽を休めくつろぐ場所でもある。今後も、近隣商業施設や荒神山神社境内、荒神山林道やリバーボート場にも看板を設置し啓発するとともに、広報活動を拡大し、広く一般の方にも周知いただくということと同時に今後も、環境整備と環境改善に尽力していき、うつくしく心安らぐ場所になるよう取り組んでいきたい。

総括

よかったこと

- ・なにより、河岸、河川敷を含めリバーボート乗り場がとても美しくなった。
- ・活動をしているときに、通行している方が興味を持ち活動の趣旨や活動状況など観察したり、聞いたりしておられた。
- ・参加者は、とても熱心に取り組まれていた。
- ・計画した時間より、15分早く終了することができた。人数はすくなくはなれていた方が多かったこともある上に、一人ひとりがとても意欲的に取り組んでいただけた。

今後の課題

- ・現地で詳細を分担しなければならず（一般参加の数が読めない）、綿密に所員や関係団体との打ち合わせが必要。
- ・活動時期と時間は適切であったか。特に、平日開催となると大学生の参加が少ない。一方では、市役所などには動員がかけやすい。二律背反的な部分がある。
- ・事前周知の方法について、広報活動等周知や協力依頼の方法を検討する余地がある。
- ・宇曾川をつかっている釣り人にどのように啓発をし、作業に協力または、同調してもらうことができるか。
 - 当日、理解を求めるため一人ひとりに啓発とともに理解を求めた。ほぼ全員からも理解が得られ、中にはねぎらいの言葉ももらえたが、一部素っ気ない方もおられた。
- ・当日の天候の判断をどうするか。
- ・ごみの袋をどうするか。（準備や処理）
 - ごみ処分は、彦根市清掃センターもしくは、湖東土木事務所管理調整課に今後も依頼の方向（瓦済み）
- ・あまりに大量のゴミを一つ一つ手作業で拾い上げるのは効率が悪い。
- ・ナガエツルノゲイトウの除去作業と同時に開催する場合、人手不足は否めないと思われる。
- ・トイレが子どもセンターもしくは、唐崎神社を利用するしかない。